

□議員名：宮本政志

1 「人口減少社会における活力のあるまちづくり」について

論点	藤田市長は、30年後、50年後の本市はどのようなまちになっていると考えているか。
回答	本市にお住まいの方々はもちろん、将来、本市で暮らしていかれる方々に至るまで、皆様が笑顔で毎日を過ごしていけるよう、様々な場面で住みよい暮らしを提供できるまちづくりを目指していく。

論点	本市の将来都市像、「活力と笑顔あふれるまち」の活力があふれたまちになると、市民にとってどのようないいことがあるのか。
回答	協創によるまちづくりの考えのもとに、多くの方がつながり、笑顔と活力と住みよさの好循環で、子供からお年寄りまで住んでよかった、住みやすい、住んでみたいと思えるまちになる。また、スマイルシティ山陽小野田の実現にも努めていく。

論点	人口減少の大きな要因である社会減の問題について、要因をどのように分析し、今後どのような施策を重点的に展開していくのか。
回答	進学や就職で一度本市を離れる方に将来的に戻ってきてもらうためには働く場の確保は重要である。また、就職先が市内企業でなくても、住むなら山陽小野田市と感じてもらうことが、本市に住みながら市外の職場に通勤してもらえることにもつながると考える。

論点	本市の若者の働く場所は不十分で少ない。創業支援や新しく事業を起こす起業に対して力を入れていくべきだが、今後の見通しはどうか。
回答	創業支援を含めた中小企業支援について、小野田、山陽両商工会議所と連携して、拡充に向け取り組んでいく。

論点	市外に働きに行っても、本市に住んでいれば受けられるような奨学金の返済を援助する制度を設けるべきだが、今後の見通しはどうか。
回答	制度導入について、市の置かれている状況等もあるので、いろんな

	市の状況等を今から少し精査なりをしていく。
--	-----------------------

2 「公立大学法人山陽小野田市立山口東京理科大学新学部設立における厚狭キャンパス周辺のまちづくり」について

論点	山口県からいつ頃譲渡を受けて、開校の時期をどのように計画していくのか。今後の見通しはどうか。
回答	県立厚狭高等学校南校舎跡地の公共利用計画を今年7月中に提出し、今年度中に譲渡してもらえよう進めていく。また、山口県からの譲渡後に新学部の施設等の整備を行い、令和11年、2029年4月の開学を目指していく。

論点	どのような学部、学科が設置される予定で、学生数や職員数の今後の見通しはどうか。
回答	新学部の名称は、医療保健学部を予定している。学科の修業年限は4年で、入学定員は、1学科40人、3学科を予定していて、1学年120人の収容定員、480人である。教員数は、1学科当たり12人の3学科で36人、事務職員は、12人程度を予定している。

論点	新学部設立における学科を含めて、その設置構想は今年度中に示されるとのことだが、今後の見通しはどうか。
回答	基本構想の策定時期は、年内を予定している。基本構想の内容は、新学部設置の経緯、設置する学部、学科の内容、どのような人材を育成するのか、学部の特色、カリキュラム、教育体制などの教育研究活動の内容、新キャンパスの施設整備などを想定している。

論点	山口東京理科大学新学部設立における厚狭キャンパスと周辺のまちづくりをどのように結びつけていくのか、今後の見通しはどうか。
回答	周辺地域の医療と福祉を支える拠点としての役割を担っていくものと期待している。新キャンパスの最寄り駅であるJR厚狭駅を多くの方が通勤、通学等で利用されることが予想され、厚狭駅周辺の商店街等の活性化などが期待できると考えている。

論点	山口東京理科大学全体で経済効果はどれくらいあるのか。
回答	公立化した平成28年度が21億1,000万円、薬学部が開学した平成30年度が32億1,000万円、令和4年度が42億7,000万円。山口県の経済波及効果は、平成28年度が32億4,000万円、平成30年度が53億1,000万円で、令和4年度は73億1,000万円である。

論点	厚狭キャンパス構想による厚狭駅周辺のまちづくりを活性化させていくために、厚狭駅に新幹線のさくらが停車するように全力で取り組んでいくべきだが、今後の見通しはどうか。
回答	山口東京理科大学厚狭キャンパス設置は、新幹線さくら停車実現の好機であり、千載一遇のチャンスと捉えている。行政、議会、経済観光団体の三位一体で要望活動を進める時期が到来しているので、山陽小野田市を代表して市民の先頭に立って、新幹線さくらの厚狭駅停車の実現に向けてあらゆる機会を通じて積極的に要望していく。